

れ だ ん や ま も の が た り
レダンの山の物語



か ひと しっぴつしゃ ひ やまじゆん こ
書いた人／執筆者：檜山純子

ひと しっぴつきょうりよくしゃ なかごしな おみ
てつだってくれた人／執筆協力者：中越尚美

いらすと あいな ひやま ざずり
イラスト：アイナ・ヒヤマ・ザズリ

れだんさん まれ しあ
レダン山はマレーシアの
じょほ るしゅう たか
ジョホール州にあります。高さは
1276 め とる
メートルです。めずらしい
き はな おお たき
木や花が多く、きれいな滝もあり
ます。



おかしむかし れだんさん ひめさま まほうつか
昔々、レダン山にとてもきれいなお姫様が、魔法使い
のおばあさんといっしょに住んでいました。

くにまらっか まふむど おうさま
となりの国マラッカにマフムドという王様がいました。こ
まふむどおう やま ひめさま けっこん おも
のマフムド王は、レダンの山のお姫様と結婚したいと思
ました。マラッカには王様のために働く家来たちがたくさ
んいました。王様は家来に言いました。



「レ^れダ^だンの山^{やま}のお姫^{ひめ}様に会^あいに行^いくの^だ!そして、『王^{おう}様^{さま}と結^け婚^{こん}してく^ださい』と^いう^のだ!」

王^{おう}様^{さま}にはもう 1番^{ばん}目^めの奥^{おく}さんと子^こどもが^いました。でも、
イ^いスラ^{すら}ム^む教^{きょう}では 4人^{にん}まで奥^{おく}さん^をも^らう^ことが^でき^ます。

レ^れダ^だンの山^{やま}のお姫^{ひめ}様に2番^{ばん}目^めの奥^{おく}さん^にな^って^もら^うの^は
難^むず^かしい^しご^とです^から、誰^{だれ}も^レダ^だん^{さん}山^{まで}行^いき^たが^りま^せ
ん^でし^た。

王^{おう}様^{さま}は、マ^まラ^らツ^っカ^かで一番^{いち}偉^{ばん}い^えら^けら^いい^はん^とあ^い
た。

「レ^れダ^だん^{さん}山^に行^いっ^て、お^{ひめ}姫^{さま}に^あい^はう^のだ!」

は^はん^とあ^{げん}き^は、あ^まり^{げん}気^きでは^あり^ませ^んで^した^が、「はい、
か^かし^こま^りま^した、王^{おう}様^{さま}!」と^いい^まし^た。



はんとあほか けらい れだんさん い やま
ハントアと他の家来たちはレダン山へ行きました。山に
くさ き かわ おお いし どう
は草や木がたくさんあり、川や、大きな石もありました。動
ぶつ たいへん むら つ
物もたくさんいましたから大変でしたが、村に着きました。

れだんさん ひめさま むらびと
「レダン山のお姫様はどこですか。」と村人にききました
が、村人たちは

わ わたし ひめさま うち し
「分かりません。私たちはお姫様の家を知りません。お
ひめさま ふしぎ ひと い
姫様は不思議な人です。」と言いました。

はんとあ つか けらい ひとり ままと
ハントアはとても疲れましたから、家来の一人、ママトに
わたし むら やす れだん やま ひめさま あ き
「私は村で休みます。レダンの山のお姫様に会って来てく
ださい。」と言いました。



ままと ほかに けらい れだんさん のぼ やまのぼ
ママトと他の家来たちはレダン山を登りました。山登り
たいへん ひめさま うち つ ひめさま うち
は大変でしたが、お姫様の家に着きました。お姫様の家
は、とても不思議でした。はしら おお ほね
は、とても不思議でした。柱は大きな骨でできていました。
そして、やね なが かみ
そして、屋根はとても長い髪でできていました。

うち なか まほうつか で
家の中から魔法使いのおばあさんが出てきました。「ど
なたですか。」

わたし まらっか まふむどおう けらい おうさま れだん
「私はマラッカのマフムド王の家来です。王様は『レダン
やま ひめさま けっこん い ままと
の山のお姫様と結婚したい』と言っています。」とママトは
い
言いました。おばあさんは、

わ ひめさま い うち はい
「分かりました。お姫様にききます。」と言って、家へ入り
ました。しばらくして、おばあさんはいえ なか で
い
言いました。



「お姫様は七つの物が欲しいと言っています。七つの物をください。そうすれば、お姫様は王様と結婚します。」

つ目は蚊の心臓を大皿七皿です。2つ目は蚕の心臓を大皿七皿です。3つ目はまだ実が緑色で固いビンロウのジュースをかめ七杯です。4つ目は女の子の涙をかめ七杯です。5つ目はマラッカからレダン山までの金の橋です。そして、6つ目はレダン山からマラッカまでの銀の橋です。7つ目は後で教えます。」

ママトは山を下り、ハントアに会いました。そして、お姫様の欲しいものを言いました。ハントアはしずかにききました。そして、言いました。



「そうですか。お姫様のお願いはとても難しいお願いです。
私はもうあまり元気じゃありませんから、王様を助けるこ
とができません。王様に『あきらめてください』と言ってく
ださい。私はもう王様に会うことができません。」
ハントアはとても悲しかったのです。そして、滝の中に消
えてしまいました。
ハントア以外のママトたち家来は、王様のところに帰り
ました。そして、お姫様の欲しい物とハントアのことばを王
様に言いました。



おうさま おどろ かんが か のみ
王様は驚きました。そして、しばらく考えました。蚊、蚤、
びんろう なみだ あつ まらっか
ビンロウ、涙を集めることはできます。しかし、マラッカ
れだんさん きん ぎん はし たいへん
らレダン山までの金と銀の橋をつくるのは、とても大変で
す。かね ひと ちから じかん ほん とも
す。お金と人の力と時間がたくさんかかります。ハントアも
もういません。でもおうさま ひめさま けっこん
もういませぬ。でも王様はお姫様と結婚したかったので、
あきらめませんでした。そして、はし
橋をつくることを決めまし
た。

か のみ びんろう なみだ あつ はし けらい
蚊、蚤、ビンロウ、涙を集め、橋もできました。家来たち
はし わた ひめさま あ い ひめさま はし
は橋を渡って、お姫様に会いに行きました。「お姫様、橋を
み
見てください。とてもきれいです。さあ、おうさま けっこん
さい。」



ひめさま い
お姫様は言いました。

「ありがとうございます。とてもきれいですが、^{わたし}私はもうひとつ、^ほ欲しい
ものがあります。それは、^{おうさま}王様の^{むすこ}息子さんの^ち血を^{ちやわん}茶碗一杯
です。^{むすこ}息子さんの^{みぎ}右の^{うで}腕を^き切ってください。」

^{けらい}家来たちは^{まらっか}マラッカに^{かえ}帰りました。そして、^{ひめさま}お姫様の^{ねが}願
^{おうさま}いを^い王様に言いました。

^{おうさま}王様はとても^{おどろ}驚きました。そして、^{なが}長い^{あいだ}間、^{なに}何も^い言いま
せませんでした。でも、^{おうさま}王様は^{ひめさま}お姫様と^{ぜったい}絶対に^{けっこん}結婚したかった
ので、^{むすこ}息子の^{みぎ}右の^{うで}腕を^き切ろうと^{おも}思いました。



その晩、王様は息子の部屋へ行きました。かわいい息子はよく寝ています。王様は剣を振り上げました。でも、振り下ろすことができません。

「えいっ、もう一度。」

すると突然、光の中にきれいな女の人が出てきました。

「王様、やめてください！私はレダンの山の姫です。あなたは息子さんの腕を切るのですか。とても悪い人です。私はあなたと結婚しません。」レダンの山のお姫様は強い声で言いました。



そして、お姫様は突然消えました。同じ時、金の橋も銀
の橋も消えました。王様も、家来たちもとても驚きました。

そして、みんな悲しくなりました。

その後、誰もレダンの山のお姫様を見ていません。お
姫様はどこへ行ったのでしょうか。

さて、それから何百年も経ちました。でも今、不思議な
ことがあります。レダン山で、あの魔法使いのおばあさん
を見る人がいるそうです。(2169字)

